

【短報】ツヤハダヒメゾウムシ（コウシュンラン科）に関する生態覚書

ゾウムシ科ヒメゾウムシ亜科に属するツヤハダヒメゾウムシ *Phrissoderes rufitarsis* (Roelofs, 1875) は、体長 3.3 ~ 3.9 mm で、日本（本州，四国，九州）と韓国に分布するとされる（吉原，2016）。一方，Hong (2000) は調査標本と原記載の記述からは本種の韓国における分布を確認できなかったとしている。なお，旧北区産の本属には，本州および九州，沖縄島に分布するチビツヤハダヒメゾウムシ *Phrissoderes minor* Yoshihara, 2016 と中国福建省に分布する *Phrissoderes exsculptus* Voss, 1958 が知られているほか（Prena, 2011; 城戸，2016; 吉原，2016），台湾に 1 未記載種が存在する（Morimoto, 1994）。

本種はこれまでにラン科のキンラン，コウシュンラン，サイハイラン，ミズチドリ，ショウキラン，キバナノショウキランから成虫が採集されている（Morimoto, 1994; 高野・大桃，2005; 吉原，2016）。なお，このうち“コウシュンラン”の記録は“Host plants: an orchid (Kohshunran in Japanese)”と記した

Morimoto (1994) によるものだが，これは“コウシュンラン”の誤記である。ツヤハダヒメゾウムシ成虫の加害植物として様々なラン科植物が報告されていることから，本種はこの植物群を広く寄主利用している可能性が高いが，未だ生態的知見に乏しい。今回，筆者らの現地調査により，ツヤハダヒメゾウムシの加害植物に関する新知見が得られたので，ここに報告する。

今回新たに確認されたツヤハダヒメゾウムシの加害植物は，ギンランおよびシロバナキンラン，ツチアケビ，エゾスズラン，オニノヤガラ，ノビネチドリである。さらに，筆者らは既報のキンラン，サイハイラン，キバナノショウキランからもツヤハダヒメゾウムシによる加害を観察している。なお，それぞれの観察データは下記の通りである。

ギンラン：茨城県つくば市松の里，高野勉目撃。

キンラン：2 exs., 22. V. 1999, 1 ex., 14. V. 2002, 茨城県つくば市松の里，高野勉採集（高野・大桃 2005, 図 1A（2018 年 5 月 16 日撮影））。2 exs., 2. V. 2015, 神奈川県横浜市都筑区，末次健司採集。

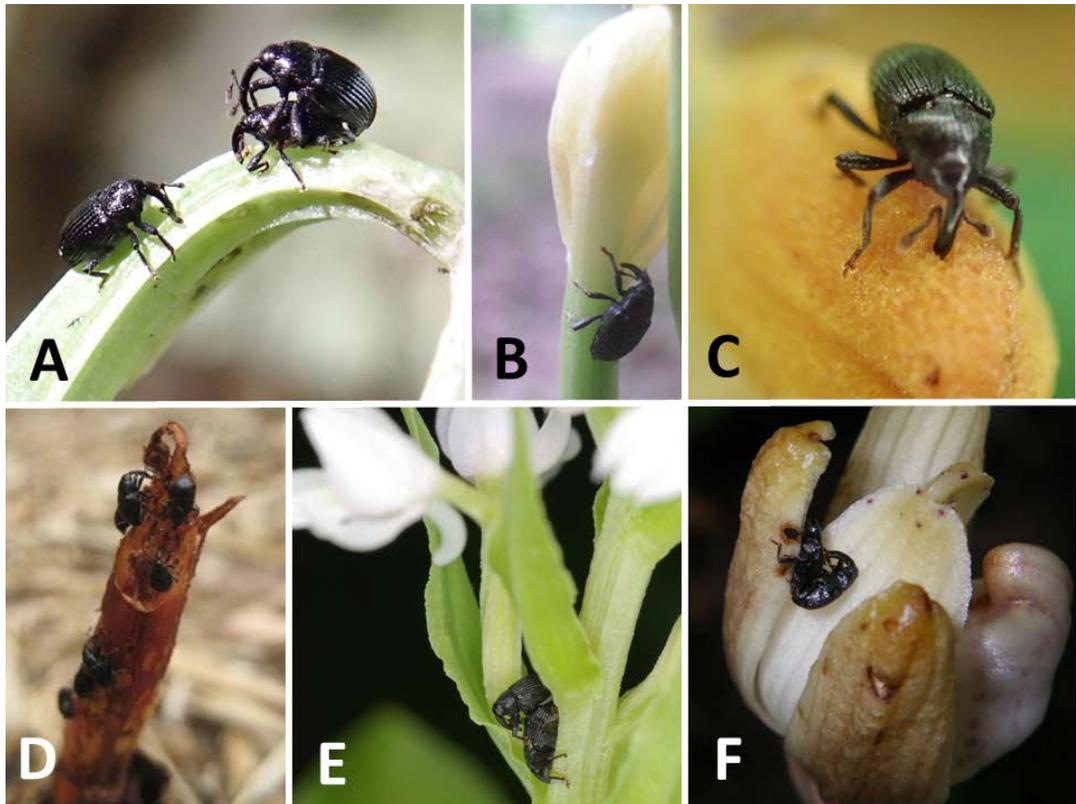


図1. ラン科植物を加害するツヤハダヒメゾウムシ。A：キンラン（茨城県つくば市松の里，高野 勉撮影）；B：シロバナキンラン（茨城県石岡市築谷，早川宗志撮影）；C：ツチアケビ（静岡県富士宮市粟倉，末次健司撮影）；D：オニノヤガラ（滋賀県東近江市建部北町，末次健司撮影）；E：ノビネチドリ（群馬県嬬恋村干保，中原直子撮影）；F：キバナノショウキラン（静岡県富士宮市粟倉，末次健司撮影）。

シロバナキンラン：2 exs., 4. V. 2015, 茨城県石岡市染谷, 早川宗志採集 (図 1B).

ツヤハダヒメゾウムシの成虫が, キンラン属植物に対して花や蒴果を加害することを観察している. つくば市松の里の森林総合研究所樹木園内では, ツヤハダヒメゾウムシによるギンランとキンランの両種への加害を 1999 年以來ほぼ毎年観察している.

サイハイラン：3 exs., 7. VII. 2018, 秋田県にかほ市象潟町, 末次健司採集.

サイハイランの蒴果や花序柄への産卵を確認している. また, 幼虫は蒴果や花序柄に穿孔することを確認している.

ツチアケビ：2 exs., 26. VII. 2014, 静岡県富士宮市粟倉, 末次健司採集.

ツチアケビの蕾や若い花序柄での交尾, 産卵を確認している (図 1C).

エゾスズラン：2 exs., 3. IX. 2012, 長野県茅野市豊平, 末次健司採集.

ツヤハダヒメゾウムシの成虫が, エゾスズランの蒴果や花序柄を加害することを観察している.

オニノヤガラ：10 exs., 4. VI. 2015, 滋賀県東近江市建部北町, 末次健司採集.

ツヤハダヒメゾウムシは, オニノヤガラの花序柄の下部で, 成虫が交尾, 産卵していること (図 1D), 幼虫は花序柄と塊茎に穿孔することを確認している.

ノビネチドリ：2 exs., 15. VI. 2010, 群馬県吾妻郡嬭恋村干保, 吉武啓・中原直子採集.

白花のノビネチドリの花序からツヤハダヒメゾウムシを見出している (図 1E).

キバナノショウキラン：6 exs., 27. VIII. 2013, 静岡県富士宮市粟倉, 末次健司採集 (図 1F).

さらに, サルメンエビネに対する加害が報告されている (永幡, 2016).

以上, ツヤハダヒメゾウムシは成虫期にラン科植物のうち, エビネ属およびキンラン属, サイハ

イラン属, ツチアケビ属, カキラン属, オニノヤガラ属, ノビネチドリ属, ツレサギソウ属, ショウキラン属を加害することが明らかになった. 今後, ラン科の他属からもツヤハダヒメゾウムシの加害植物が発見される可能性があるため, さらなる調査が必要である.

末筆ながら, 現地調査にご同行いただいた中原直子氏 (つくば市) および佐藤政幸氏 (富士市), 新井和也氏 (八王子市) に感謝する.

#### 引用文献

- Hong, K.-J., 2000. Weevils on orchid in Korea (Coleoptera: Curculionoidea). *Korean Journal of Applied Entomology*, 39: 131-134.
- 城戸克弥, 2016. 福岡県産ヒメゾウムシ 3 種の記録. *月刊むし* (546): 55.
- Morimoto, K., 1994. Notes on orchid weevils in Japan, with description of a new species (Coleoptera: Curculionidae). *Transactions of the Shikoku Entomological Society*, 20 (3-4): 233-241.
- 永幡嘉之, 2016. 個人ホームページ「世界のブナの森」. URL <https://ameblo.jp/rosalia-coelestes/entry-12117447871.html> (2018 年 8 月 24 日閲覧)
- Prena, J., 2011. Baridinae [pp. 251-261]. In: Löbl, I. & A. Smetana (eds.), *Catalogue of Palaearctic Coleoptera*, 7. 373 pp. Apollo Books, Stenstrup.
- 高野 勉・大桃定洋, 2005. 茨城県産甲虫リスト補遺 (1). *るりぼし*, 32: 35-61.
- 吉原一美, 2016. ゾウムシ科ヒメゾウムシ亜科. *日本の昆虫*, Vol. 6. 171 pp. 権歌書房, 福岡.
- (早川宗志 422-8017 静岡市駿河区大谷 5762 ぶじのくに地球環境史ミュージアム)
- (末次健司 657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 神戸大学大学院理学研究科)
- (高野 勉 301-0001 龍ヶ崎市久保台 2-10-5)
- (吉武 啓 901-0336 糸満市真壁 820 (国研) 農研機構 九州沖縄農業研究センター)